

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

防府市立大道小学校（山口県）

## 【取組内容】「学習支援ソフト」を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



子どもたちが自分の考えを発表したり、クラスメイトのカードを比較したりすることで、対話的な学びを実現している。

また、様々な教科・学習活動場面で「シンキングツール」を用いて、想像しながら考えを広げたり、比較しながら考えを深めたりするなど、思考力の育成に取り組んでいる。



デジタルドリルの活用により、教師側からの課題のみならず、個々の学力（段階）に応じた取組を保障することで、学び直しの機会や未習の内容に取り組む機会、学習へ向かう意欲や関心を高める機会の創出を行っている。

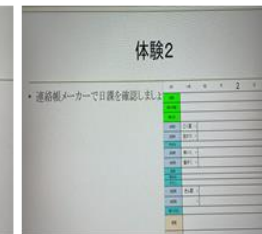
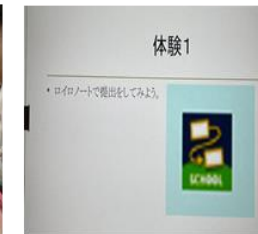
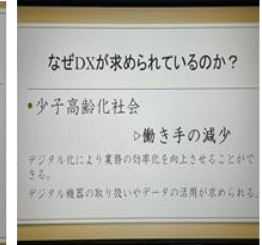
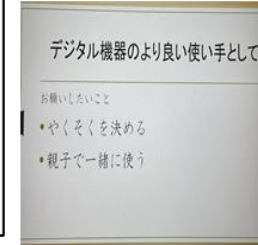
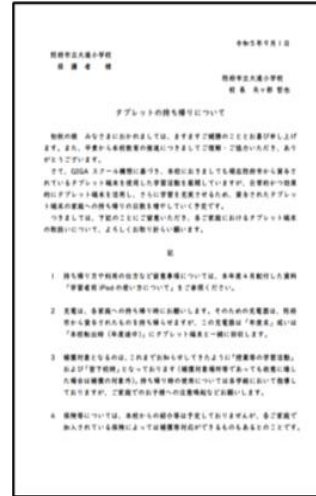


【取組内容】「職員会議・校内研修等におけるクラウドの活用による業務改善」

端末の持ち帰りに関する「ガイドライン」を再検討し、あらためて保護者に説明資料を配信・配付するとともに、各学級の懇談会において保護者説明会を開き、その際、演習を通じて実際に保護者に体験してもらうことで、端末活用の重要性・必然性の理解の促進を図り、賛同を得ることができた。

また、かばんに入れる教材・教具の精選を図ることで、児童の端末の持ち帰りの負担・支障を軽減し、保護者の更なる理解を図った。

デジタルドリルの活用や電子連絡帳（本校作成）の利用により、教員・児童・保護者は端末の持ち帰りの利便性が実感できている。



## リーディングDXスクール事業【実践事例】

府中市立大道小学校（山口県）

## 【取組内容】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

随時、クラウド上で職員会議・連絡会における協議題を共有することで、「時間」「場所」を問わず、提案資料等の作成・検証を行うことができた。併せて、その利便性・課題などを共有する場を設けた。

また、端末・学習支援ソフトを用いた会議・研修・協議の機会を増やすことで、ペーパーレス化の推進とICT活用の機運を高めている。

Googleのチャット機能を活用し、情報共有だけでなく、ビデオ会議や指導案の検討・意見交換など、適宜協議を行うことのできる環境づくりに取り組んでいる。

会議という「形式」にとらわれず、自由に意見交換する場面が増えている。

